

ロケーションプレー

聞きなれない言葉だと思いますが、今後主流になるサッカー用語であると思います。

ロケーション = 景色です。

すなわち、ロケーションプレー = 見えている景色に対して次何をするのか？を決めてプレーすることです。




上の図は車に乗っている状況です。

これだけのことを見て、自身の向かう「目的地」方向の



へ進むわけですね？

へは行きません。

また  を見て、ルールや危険の予測をして安全に走行できるのか？を“瞬時”に判断しているわけです。

つまりサッカーでも同じことをやればよいということです。

景色として見ておけばやらなければならない事が見えてきて、「状況判断」「考える」といったことが省けます。

パッと見た景色に対して、どうボールを運んだら良いのか？有効なのか？を判断→実行→成功させるだけです。

このプレーをより良いプレーにするためには「身体の向き = ボディシェイプ」が重要になります。

すなわち…

見える景色を**広くする(視野を広くする)**ことが大切なのです。

上記の車の場合も、もう少し右側が見えていればより安全に右折もできます。

サッカー観戦しているとき、まさにこの景色として外からサッカーを見ているので、どこに運ぶと有効なのか？が分かるのです。

それを試合中もそういった意識でプレーできるようになれば良いのだと思います。

そのためにも身体の向きをより良い身体の向き = Good ボディシェイプでプレーをすることが成功への鍵であると考えられます。

…当たり前なのですが、なぜその当たり前が必要なのか？がわかっていなければ、ただの言葉に成り下がってしまいます。

しかし、その言葉がなぜ必要なのか？が選手自身の腑に落ちれば、やらざるを得ない状況になります。

逆にやらなければボールを持ってからどうしようか考えるといった「時間の無駄」が発生してしまいます。



この状況で背を向いている選手 (No.39) はボールを止めた方が良いですか？

この状況が『景色』として見えているのであれば、サッカーの本質である「得点する = シュートチャンスを作り出す」という概念から考えると、選択肢は「右足で前方へ運び、ゴール方向へ向かう」が正解となります。

しかしサッカーは DF もいるので

→ピンクの DF がついて来たら (シュートコースを潰されたら) ターン

→DF 間の“ギャップ”へボールを通し味方へラストパス

→奥の DF がギャップを閉じたら後方の味方へパス

といったことになっていく可能性があります。

しかし、ただこのような景色が見えていても、どのようなプレーをすることが「良い」のか「悪い」のかを知っていなければ迷いが生じ、結果プレースピードは遅くなります。

しかもドリブル (足技) を上手くしたいと思い、ドリブルばかりしていればいるほど、DF 方向へボールを運ぶような選手になってしまいます。

これではサッカーの本質である「得点する = シュートチャンスを作り出す」ためには？に当てはめると、プレーしにくい状況に自らが追いやってしまっています。それではシュートどころか多くのチャンスを逃すのは明らかですよね。

クーバーでは「今どういうことをしたら、チームにとって有益になるのか？」 = 「シュートチャンスを多く作るためには？」 「ボールをどこから運べばチャンスになるか？」 「どのタイミングでボールを運べば良いのか？」を徹底してトレーニングしています。

『得点すること』を目的にしてプレーしていれば、DF と対峙しないでボールを運ぶ方が『目的を達成しやすい』ということではないのでしょうか？

今まで頑張って培ってきたものが足枷になってしまい、選手自身を苦しめている状況をよく目にします。

当スクールでトレーニングしていけば、このような景色の場合、ボールを止めてから「どうしようか？」などという発想になりません！

状況を景色として捉え、自分でどうしようと決めたプレーに対して、成功させる「技術」を高めていきましょう！